

関係者評価

①評議員

- ・児童館館長 ・安謝地区民生委員 ・こども園保護者会長
- ・郵住協福社会理事長 ・地域の方々

②評議員による保育参観、園行事への参加

<評議員の意見>

- ・園庭も広く、子ども達が伸び伸びと遊んでいる。
- ・行事などへの参加を通して、感想が肯定的であった。子どもたちが元気に、また楽しそうに参加している姿が見られたようで「こども園の運動会は見えてホント楽しい！」との感想があった。そして、「自分たちも楽しませてもらった」と喜びの声もあつた。
- ・行事などの経験により、子ども達の成長につながったと思う。
- ・リズム、空手、体育など専門の講師からの指導の時間も充実している様子が伺える。
- ・栽培活動で季節ごとの野菜の収穫、クッキングなど充実していて、食育にも繋がっていると思われる。

分析・考察

<前年度結果>

- (1) 保護者によるアンケートにおいては、園の運営に関しては「ほぼ達成できている」の評価がほとんどであった。
子どもに関する事について、「改善する必要がある」の評価も少数あり、評価が低かった。
- (2) 行事の感想で喜ぶ声や、園児が喜んで登園しているという意見があった。
- (3) 保育教諭による評価（自己評価）において、「ほぼ達成できている」の評価が多かった。
環境整備、安全指導、地域との連携、保護者連携に関しては、「あまり達成できていない」の評価もあった。
- (4) 学校評議員による評価においては、なかなか園の行事への参加が呼びかけられない現状がある。限られた時間での説明や報告、広報活動となっている。

<分析・結果>

- ・保護者アンケートにおいては、教育・保育内容の面に対する評価の結果が職員のこれまでの取組みによるものと思われる。今後も励みにしていきたい。 半面、保護者が園に求める事項が増えているように感じる。
- ・自己評価においては、担任と特別支援児担当、フリー保育教諭の中で、クラスの主任は自己肯定感が高く自信をもって取り組んでいることが分かった。特別支援児担当、フリー教諭との密な連携が今後の課題のように見受けられる。
- ・評議員の方が積極的に行事などに参加する姿が見受けられたと同時に、園の活動等への理解が深まったように思われる。一方、評議委員会の持ち方等に関しては課題が残る。

改善方針・改善策

- ・保護者参観や保護者会活動など、保護者が参加する機会を増やし、保護者と連携していけるように、時期・内容・周知などの工夫をしていく。
- ・保護者の思いを受けとめつつ、園の思いや考えを伝え、園児の成長のためにできる事を保護者と一緒に考えていく。
- ・園児一人一人の発達について、園長はじめ、職員間で共通理解を図り、更に家庭と連携した教育・保育活動を進めていきたい。
- ・園の様子や子ども達の様子などを、定期的に保護者や地域の方に情報発信して子育て支援の充実に努める。
- ・職員が各々の教育課程を振り返り、課題を改善に活かしていく事、また職員間でその共有をしていく事を更に重視していきたい。
- ・教育・保育内容の課題を十分に協議し、子ども達が伸び伸びと活動できるように、職員も自信を持って自己肯定感が高められるように改善する。
- ・園経営について、説明や取組の報告・広報活動など、必要な情報を適切な時期に保護者や地域の方へ発信していき、こども園の教育及び保育について、より理解される事で、繋がりを深めていきたい。

